

アクションカードを活用した防疫体制の改善について

○臼井 茉理子

1. 緒言

わが県では 2019 年の豚熱防疫対応を始めとし、高病原性鳥インフルエンザと豚熱で過去 5 度の特定家畜伝染病に対する防疫対応を行い、その中で様々な課題が浮上し、解決へと向けて対応を行ってきた。今般、公衆衛生部局との意見交換を行い、指揮命令系統の混乱等の改善に向けて有効な対応ができたので概要を報告する。

2. 経過

2019 年 2 月に県内で初となる豚熱の防疫措置を実施。指揮体制の改善のため、現地指揮所であるテント基地・農場内・集合場所それぞれに責任者を配置した。情報共有と資材管理の不備を解消するべく家畜保健衛生所（以下、「家保」という。）の指揮下で連絡調整や資材管理などを担う「家畜防疫連絡調整員」を配置した。2020 年 12 月には HPAI の防疫措置を実施。防疫措置開始までの時間が短く作業不足であったため即応可能な「現地応援隊」を新たに設けた。また農場での作業時間を短縮する体制に変更した。休日の防疫対応準備で調達困難な資材があったため、備蓄資材量を見直し新たな備蓄倉庫を設置した。2021 年 10 月の豚熱発生時には、ビジネスチャットツールのグループ乱立により情報共有に格差が生じたので、画像送信方法を含めた情報伝達の方法を文書化した。また熱中症患者の発生を受け、傷病者発生に備えた救護対応のマニュアル化に向けて整理を進めた。併せて暑熱時における服装を文書化した。2023 年 1 月の HPAI 発生時にはテント基地の指揮命令系統の混乱により汚染ゾーンと清浄ゾーンの交差汚染領域が発生したので、関係機関と合同でテント基地設営場所を確認しテント基地配置図の再検討を実施した。テント基地配置図は関係機関で共有・更新ができるように制度化した。

3. 改善対応

制度を整えても、指揮命令系統の混乱とマニュアル記載事項が実行されないことは防疫対応の課題であった。そこで公衆衛生部局との意見交換会を通じて問題点を整理した。指揮命令系統があいまいであること、マニュアルが膨大で、緊急時に適切な箇所を参照できないことが問題点だと考え、「何を」「いつ」「誰が」「どうやって」行うべきかを、具体的かつ簡潔に記載し、混乱の中でも的確な行動が取れるようにする必要があるため、まずは指揮命令系統の再検討と、業務の見直しを実施した（図 1）。また保健所等で災害発生時対応に用いる、行動する際の手順や判断基準を明文化したアクションカードを参考にする事とした。関係者と協議の上、必須で行うべき事項を整理し「何を」「いつ」「誰が」「どうやって」行うべきかを具体的に記載した防疫対応版アクションカードを作成した（図 2）。

今後は作成したアクションカードを用いた家保内初動訓練ならびに各地域と合同の防疫演習、保健所の係長級職員の災害対応訓練を参考にした責任者に任命される家保家畜防疫員への演習を実施し、より有効性の高いアクションカードへの改良を行い、効率的な防疫対応につなげていきたいと考えている。

